

夢

ふるさと

YUME

とやま

MAKE YOUR DREAMS COME TRUE



*ふるさとウォッチング
地域一体となった環境整備を！
七口環境保全会（滑川市）

棚田を起点とした農村の美しさを全国へ
長坂の棚田（氷見市）

*地域の魅力を発見！とやま農山漁村インターンシップ
地域の魅力を発見し、農業を活かした生活スタイルを考える
富山市婦中町道島・上野地区

*中山間地域チャレンジ支援事業
閉園した幼稚園舎を活用！
地域のコミュニケーション拠点へ
砺波市栴檀野自治振興会

*魅力たっぷり！とやまの6次産業化
小さな休み時間を過ごしませんか／TAKI CAFÉ
国際色豊かな農園、メニューも工夫次第／株式会社 Farm

*カモ親子の農村日記
先人の努力がつなぐ用水 下条用水
（富山市・滑川市・上市町）

*トピックス
世界かんがい施設遺産県内初登録！常西合口用水（富山市）
自然と遊ぼう！やまびこの郷“夢創塾”（朝日町蛭谷）
とやま帰農塾2022／第11回「とやまの農山村写真展」



表紙は、
「YUME」の醸造・販売
「レポーター株式会社」さん



スマートフォン・タブレットから
デジタルブックにアクセス！



水路の草刈り



用水路の直営施工による補修



危険箇所を設置された「用水だ！」

ケーシヨンを図っています。保全会で用水路の点検を行っている際に発見した危険箇所については、地域住民の農業用水路への転落事故を未然に防ぐため、危険啓発看板「用水だ！」を設置するなど、安全対策を推進しています。

取り組みによる効果

これら保全会の活動で農地周辺だけでなく地区全体の景観を含めた農村環境が少しずつ改善されており、地域住民が地域の魅力を再確認できたことでより一層の美化意識の浸透が感じられるようになりました。

また、生物の生息状況調査を通じて子供たちと地域との繋がりが深まり地域コミュニティの活性化が図られたほか、危険な用水路に注意看板が設置されたことにより住民の意識が高まりました。



多面的機能支払交付金とは？

- 農業・農村の有する多面的機能（国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成等）の維持・発揮を図るため、適切な保全管理（農地法面の草刈り、水路の泥上げ、水路等の補修・更新）を支援するための交付金です。



地域の道路を彩る植栽



身近な用水でいきもの調査！

今後の課題

七口環境保全会では、少しずつこの活動に取り組む農地の面積を拡大させ、積極的に新たな活動に取り組んでいるところです。しかしながら、保全会に参加する住民の更なる高齢化や兼業で働く現役世代の労働環境の変化により近い将来、これらの共同活動の継続が難しくなっていくのではとの危機感があります。地域の活動に対する理解が深まっている一方、役員や草刈り作業への参加メンバーが固定化している一面もあり、地域全体で活動に取り組む体制づくりを進めていくことを今後の課題として、この多面的機能支払交付金を活用した活動を進めていきます。



地域一体となった環境整備を！

滑川市では、現在42の活動組織が「多面的機能支払交付金」を活用し様々な農村を守る共同活動を行っています。ここでは、特に積極的に地域農業の継続と地域の活性化に取り組んでいる『七口環境保全会』の活動を紹介します。

ふるさとウォッチング
七口環境保全会

滑川

活動内容

保全会は自治会や地域の生産組合など農家だけでなく、非農家も含めた220名程度（役員は会長以下13名）で構成されています。

4月に年間の活動計画を立て、それに基づいた農地法面・農道路肩・水路等の草刈り、泥上げなどの農業の生産基盤を守る活動のほか、周辺道路の植栽や子供たちによる生物の生息状況調査なども行い環境保全活動の啓発に努めています。また11月頃には農業者や地域住民が老朽化の進む農業用水路の目地補修などを直接実施しています。七口環境保全会では、これらの活動に地域で農業を営む人はもちろん、非農業者も参加しやすくなるような体制づくりを工夫して実施しており、様々な共同活動を通して地域のコミュニ

きっかけは地域の危機感から

農業や農村は、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成等の多面的機能を有しており、地域に密着し、欠かすことのできない存在であり、集落住民が協力し合いながら守ってきました。

しかし、近年の農村地域の過疎化、高齢化等の進行に伴う集落機能の低下により、地域の共同活動によって支えられている多面的機能の発揮に支障が生じつつあります。住民一人ひとりが「このままで大丈夫だろうか・・・」と地域の将来に不安を感じていました。

七口地区ではこのような状況を打開したいという思いから、令和元年度から多面的機能支払交付金を活用した活動を開始しました。

オーナーが来られない間の草刈りなど
地域住民で協力して行います

道路脇に植栽をして
地域をより美しくします



美しい「棚田の里」をより良い形で後世に渡していく
ためにも、長坂集落は「中山間地域等直接支払制度」を
活用し、幅広い年代の住民が一体となって農用地を中
心に集落の将来について話し合い、草刈りや水路等の
設備補修など地域環境保全活動に取り組んでおり、こ
の活動を通して世代を超えた絆が深まっています。

「棚田の里」を守る保全活動

棚田を見下ろす県道306号線
沿いにたたくむだいぬぐす



名所の一つ曹洞宗のお寺
光西寺



長坂集落の藤井隆区長は「これまでたくさんのお褒
めの言葉を棚田オーナーの皆様からいただくことで、
地域住民は農地の維持活動により一層励んでいます。棚
田オーナーの方々だけでなく、観光に来た方々にも長
坂の良さを感じてもらえるよう、これからも精進して
まいります。そして「こ長坂から、自然豊かな氷見市の
景観を全国へ発信し、より多くの方にふるさと氷見を
愛してもらえるようになれば幸いです」と話しました。
長坂の棚田をきっかけに氷見の魅力が全国に広が
るのが楽しみです。



天平
夢の里長坂
心のふれあう
村づくり



『天平夢の里長坂心のふれあう村づくり』という集
落内の名所旧跡を紹介する冊子。この冊子では寺社や
古木、滝などを紹介し、観光客のガイドブックとして
活用するだけでなく、それらの
「地域の宝」としての価値を後世
へ伝えたいという思いも込めら
れています。

「地域の宝」を観光資源に

棚田を起点とした 農村の美しさを全国へ

石川県境に程近く氷見市北西部に位置する長坂集落。標高
約200mの急傾斜地には美しい棚田が広がっています。天気
のよい日には、富山湾越しに浮かぶ立山連峰を眼下に望む美し
い景観が広がり、平成11年に「日本の棚田百選」に認定されま
した。平成10年には、富山県初の「棚田オーナー制度」を開始
し、棚田の魅力を広く発信しながら地域活性化に向けた活動に
精力的に取り組む長坂集落の魅力を紹介します。



棚田オーナー
との田植え



地元住民に教わりながら
稲刈りをします

都市住民が田植えや稲刈りなどの農作業体験をし
ながら交流活動をする長坂の棚田オーナー制度。オー
ナーが来られない間の普段の田んぼの管理は「椿衆
(つばきゆう)」と呼ばれる地元住民たちが行いま
す。「椿衆」は農作業体験の際には、棚田オーナーに指
導しながら一緒に作業を行います。
このオーナー活動を始めるきっかけは、中山間地域
の人口減少や高齢化が深刻化、担い手不足が進行し、
農地の荒廃が進んでいくのでは…と長坂集落の住民
たちは危機感を感じたからです。「集落の農地を守ら
なければならぬ」という住民の強い思いが、県や市、
関係機関を動かして、農地の整備を進めるとともに、地
域活性化策としての棚田オーナー制度を導入しまし
た。
いまでは県内外から年間延べ3000人もものオー
ナーやその他関係者が訪れるようになり、多くの人が
ちが長坂集落の美しい景観や美味しいお米を楽しん
でいます。

棚田オーナーとの農村交流

中山間地域等直接支払制度とは？

・中山間地域とはどんな地域？
中山間地域とは、山間地およびその周辺の地域、
そのほか地理的条件が悪く、農業をするのに不利な
地域をいいます。本県では県全体に対して面積約7
割、人口約2割を占めており、県土の保全等について
重要な役割を担っています。
中山間地域等直接支払制度とは、傾斜などの農業
生産条件が不利な地域において、協定に基づいて農
業生産活動等を行う場合に面積に応じた額を交付し、
将来に向けて農業生産活動を維持するための活動
を支援するものです。



富山湾越しに浮かぶ
立山連峰を眼下に望む



稲架掛けが完成!



▲協力して稲架を作る

地元の農事組合法人「音川加工」での大カブ漬けも体験メニューの一つ。なんと、この大カブのスライスはすべて手作業です。スタッフ



▲小学生と稲刈り交流

地域の活動に参加!
道島・上野地区の生活とは?

いよいよ地域の活動に参加し、交流や暮らしを体験します。道島・上野地区では毎年、地元・音川小学校5年生の児童と田植え・稲刈りをして交流を深めています。今回は学生の二人もお手伝い!



地域の魅力を発見!

とやま農山漁村

インターンシップ

技を目的に、この技術や文化をどう後世に伝えていくか、学生も考えたことでしょう。稲刈りを終えると、野生鳥獣から水稲を守る電気柵の撤去作業があります。今回はとやま農業・農村サポーターと一緒にだったのでスムーズに進みましたが、この設置と撤去を毎年している地域住民の苦労を思うと、少しでも楽しくこなすにはどうしたらいいのかと、再び頭を悩ませました。

まずは準備として、地域の皆さんと一緒に昔ながらの稲架を作りま。地域の皆さんは簡単そうにしていますが、やってみると結構大変。学生たちは皆さんの足腰の強さに驚いていました。そして翌日は小学生との稲刈り体験。小学生と一緒に稲の束を作りますが、これもなかなか難しい。地域の皆さんの熟練の



▲麓さんからの話を真剣に聞く学生

テーマ
もしもここに住むなら?
地域の魅力を発見し、農業を活かした生活スタイルを考える。

農林漁業体験や地域づくり活動などを通じて地域の現状や課題を知り、若者目線で解決策を提案する「とやま農山漁村インターンシップ事業」。今回は県内在住の大学生が4か月間、自宅から通いながら問題点を明らかにし、解決に向けて知恵を絞りました。その様子をレポートします。



地区のみなさんと記念撮影

オリエンテーションと散策で地域の魅力を知ろう!

過疎化が進む一方、伝統行事やほたるの里づくりなど、地域特性を活かした活性化に取り組み富山市中町道島・上野地区。真夏の日差しが照りつける8月、とやま農山漁村インターンシップが始まりました。まずはオリエンテーションで地域の皆さんと学生が対面。この地区の基礎知識を教わり、案内してもらいます。富山の米にほれ込んで3年前に移住し、自然栽培に取り組んでいる麓さんの田んぼも見学。移住者目線で見た地域の印象を聞きました。

交流活動を中心に魅力的な活動を続けている道島・上野地区ですが、他の中山間地域と同様、リーダーの高齢化と後継者不足に悩まされているという現状…。さて、学生たちはどのように解決するアイデアを出すのでしょうか。



総代から獅子舞を教わります

▼地域内の名所も見学



富山市中町道島・上野地区

【日程】令和3年8月9日(月)～12月19日(日)の間で計8日間活動
【参加者】県内の大学から2名(男性1名/女性1名)が参加

提案発表会

この地域で農業を続けながら楽しく暮らすには?、地域の魅力をもっとPRするには...?。学生たちが考えたアイデアを発表しました。

地域の皆さんからは少々手厳しい質問もありましたが、この提案を機に様々な議論が交われ、昔話から未来構想までたくさんの話を聞くことができました。今回の活動で道島・上野地区のファンになった学生の二人。地域の皆さんも「また友達を連れて遊びに来られ」とすっかり打ち解けた様子。今後も、地域の祭りや農作業のお手伝いを通じて交流を続けていくことでしょう。



▲電気柵の撤去を学びます



▲職人技を体験!

中山間地域
チャレンジ
支援事業の
紹介

閉園した幼稚園舎を活用！
地域のコミュニケーション拠点へ

砺波市梅檀野（せんだんの）自治振興会



コミュニティカフェ「もぐもぐ」



▲梅檀野地区



▲国道359号

砺波市梅檀野地区は市の東側に位置する中山間地。増山城跡をはじめとする名所旧跡や県民公園類成の森などの観光スポットが点在し、歴史と自然が一体となった地域資源が豊かな地区です。
令和元年度には地区を通る国道359号、砺波東バイパスが全線開通したこと、都市部との交通アクセスが大きく向上し、交流人口の拡大による賑わいの創出が期待されています。



砺波市梅檀野地区

▼せんだんのHILL（旧梅檀野幼稚園）の外観



チャレンジしてみよう！
地域の魅力発信！！

このままではいけない、何か対策をと城田栄一自治振興会長は常々考えていました。「地域の賑わいを創出したい！」そんな思い



城田自治振興会長

が募る中、令和元年度に県の支援で住民参加による「せんだんの未来会議」を実施。そこで作成したまちづくり計画の実現に向け、翌年度から「中山間地域チャレンジ支援事業」に取り組みました。

地域住民が気軽にコミュニケーションできる拠点づくりのため、閉園となった幼稚園舎を利用した「せんだんのエニ」（ヒル）を令和3年4月29日にオープン。

会長はオープニングの挨拶の中で「さまざまな人に利用してもらい、元気のある地域にしたい。」と熱い思いを語り、当日は400人もの人が地場産野菜などを販売するミニマル

中山間地域チャレンジ支援事業



▲せんだんの未来会議



▲グループ発表の様子

シエやお遊戯室でのピアノとバイオリンの演奏会などを楽しみました。
せんだんのエニは当面の間、イベントやレンタル予約時のみの開館ですが、併設されているコミュニティカフェ「もぐもぐ」は毎週土日の10時から14時まで営業しています。
また、この取り組みのきっかけとなった「せんだんの未来会議」を今後も毎年開催し、地元中学生などの若いアイデアを取り入れた地区づくりを目指しています。

若手スタッフによる
つながりで魅力ある場所に！

せんだんのエニはマルシェやイベントの企画、インスタグラムでの情報発信などの若手スタッフの活躍により、砺波市内外から子育て世代を中心に多くの人が訪れる場所となっています。

また、富山森のこども園との連携により、コミュニティガーデンやアースオープンも設置され、ますます魅力ある空間となってきました。

これからも住民の思いを大切に、地区の「良い宝」をさらに磨き、新しく作り出した魅力と合わせた発信が楽しみです。



▲スタッフミーティング

地区の新たな魅力！
ここにて輝く！

梅檀野地区のチャレンジはまだ続きます。令和4年度には高齢者の移動手段確保のための送迎サービスの居酒屋プロジェクトを計画しています。どちらも具体的に計画や運用の検討を進めており、地域のさらなる活性化が期待されます。

まだ持続可能な施設運営などの課題は残りますが、チャレンジ精神を忘れずに住民全員で楽しみながら地域活性化を目指す梅檀野地区。

みなさまもお近くにお越しの際には、ぜひ「せんだんのエニ」にお立ち寄りください。

中山間地域チャレンジ支援事業とは？

中山間地域の集落と企業・団体等が連携して取り組む農山村を元気にする活動に対して、県が支援する事業です。



コミュニティガーデン

せんだんのHILL

住所／砺波市宮森新159番地（旧梅檀野幼稚園）
営業日／カフェ「もぐもぐ」 毎週土日10時～14時

詳しい情報はInstagramをご覧ください。
@sendanno_tnm



「せんだんのHILL」
オープニングのチラシ



▼こども園演奏会の様子

国際色豊かな農園、
メニューも工夫次第

～(株)葉っぱFarm(ハッピーファーム)～

住所/射水市円池23 電話/0766-75-9747
 休業日/火・土曜日、お盆・年末年始
 アクセス/小杉インターより車で約7分
 ホームページ/ <https://www.happy-f-toyama.com>
 Facebook/ @葉っぱFarm



ぜひ違いを
感じてください!



ダルマ・ラマさん

(株)葉っぱFarm
射水市

TAKI CAFÉ
入善町

魅力たっぷり!

とやまの6次産業化

小さな休み時間を
過ごしませんか

～TAKI CAFÉ(タキカフェ)～

住所/入善町蛇沢68 電話/0765-76-0256
 営業日/木・金曜日(ご予約にてランチ・体験の営業)
 土曜日10時～17時(カフェのみ)
 アクセス/黒部インターより車で約13分
 Instagram/ @takicafeshop
 Facebook/ @TAKI-CAFÉ



優しい木調の店内



小松菜ハウスで、
こだわりの
栽培です!

▲ダルマさんのハウスは遠くからでも目を引きます

ダルマさんはこだわりの小松菜を作り続けて7年目。後継者不在に悩む地元農家から農場を引き継ぎ法人化。その後、県の「6次産業化とやまの魅力発信事業」を活用し販路開拓や加工場の新設を進め、事業拡大に精力的に活動されています。

有機質肥料を中心に栽培された小松菜は、「色鮮やかでやわらかく、糖度も高い。また、アクが少ないので生でも食べられますよ」と自信たっぷり。「葉っぱFarmの小松菜を食べ、違いを感じてもらいたい」とほほ笑むダルマさんの姿が印象的です。

射水市に、ネパール出身の仏画師の
ダルマ・ラマさんが手掛ける、
「葉っぱFarm」があります。



Healthy!

TAKI CAFÉは、「地域の人たちが集う農園カフェ」を目指し、平成29年にオープン、週末を中心に営業しています。オーナーの瀧本真由美さんは、それまでの福祉関係の経験を活かし、週の前半は子育て支援の専門員として活躍されています。長年、農業は心と体を元気にすること、心と体を元気にしたいという思いと、ほっと一息できる居場所をつくりたかったことが、カフェを始めるきっかけとなったそうです。

瀧本さんの商品づくりのモットーは「しぜんがおいしい。からだにやさしい」。メニューは、体に優しい素材を使ったカレーライスやサンドイッチなどの軽食、シフォンケーキやスムージーなど、特にヘルシー志向の方に喜ばれています。

入善町蛇沢の集落の一角に、落ち着いた雰囲気のある黒い木造建てのカフェ、「TAKI CAFÉ」があります。

加工場では料理に使う小松菜パウダー、小松菜ペーストを商品化し、食品の廃棄ロスの削減や地産地消など、積極的なSDGs(エヌ・ディー・ジェス)にも取り組んでいます。これらの商品は葉っぱFarmのホームページから購入できるほか、現地へ行けば直接購入もできます。ダルマさんは農業の傍らネパールの仏画を描く絵師の活動もしておられます。ダルマさんの働く姿は、仏画師の繊細な筆タッチそのまま、一つ一つの作業がとも丁寧で、丁寧に組み立てられています。

現在、併設されたカフェの2階にあるギャラリイも開放されており、ご自身が書いた曼陀羅の鑑賞も可能ですので、ぜひ一度广大で国際色豊かな小松菜ハウスを訪れてみてください。



小松菜パウダーや小松菜ペーストは県内外のパン屋やお菓子屋さんを中心に活用されています。栄養価が高いので、離乳食から介護食まで幅広い用途があります。

食材の一部はカフェの側にある畑やハウスで栽培し、イチジクやブルーベリー、エゴマ、ニンニクなど体に良いといわれるものを季節毎にメニューにたっぷり使っています。

さらに、これらの素材の良さを生かすため、甘さ控えめの体に優しいメニューを心掛けています。

また、お客さんからのリクエストもあり、テイクアウト商品の開発にも熱心に取り組んでいます。ドライフルーツや焼き菓子などにも挑戦し、品目をどんどん増やしています。昨秋からは、新たな取り組みとして自家栽培のエゴマの搾油体験を実施。自分で絞るエゴマの香りは格別で、人気が高まっています。

今後は、体に良い食材の自家栽培をさらに増やすための栽培技術を学ばたいとのこと。

TAKI CAFÉで、
“小さな休み時間”
過ごしませんか!

▼ドライ柿



しぜんがおいしい
からだがやさしい!



オーナーの瀧本真由美さん



▲エゴマの搾油体験

絞り方での
香りが格別!



雰囲気のある黒い木造建て

▼この畑で栽培した食材を使用しています



▲ダルマさんが描いた仏画



▲ネパール餃子「モモ」
ネパール餃子「モモ」は、ダルマさんが故郷ネパールの味を日本人にも味わってほしいと商品化しました。



小松菜入り
葉っぱFarm
オリジナル
MOMO(モモ)



▲逆サイフォン部分のヒューム管敷設の様子

- (※1) 逆サイフォン
用水の入口よりも出口が低い位置にある場合、さらに低い位置(河川の下)を過っても水が流れるしくみ。
- (※2) オリフィス方式
小さな穴の開いた板で流量を調整し、穴から水を流すこと。
- (※3) 頭首工
川から用水路に農業用水を取り入れるための施設。

式が行われました。
まずは郷川で水をせき止め、上市川の側の郷川左岸に取水口を設け、上市川の川底下をヒューム管の逆サイフォン^(※1)で横断させ、左岸に送ります。そしてコンクリート製の幹線水路を経て、穴の開いた仕切り板を設けたオリフィス方式^(※2)によって上江用水と下江用水に分水します。(図②参照)
工事は3年の工期で完成。これにより下条用水の安定的な取水と導水が可能となりました。



埋樋神社(写真上)と下条用水(写真右)
郷川頭首工逆サイフォンの出口には、杉木弥助をまつる祠を建て「埋樋神社」と呼び、毎年6月1日には地元の方々が参拝をしています。その隣には下条用水に係る事業の記念碑も建てています。



下条用水の歴史を学びましょう!



先人の努力がつなぐ用水

「下条用水 富山市・滑川市・上市町」



▲図③ 国営農地再編整備事業「水橋地区」事業実施エリア



▲図④ 下条用水受益エリア

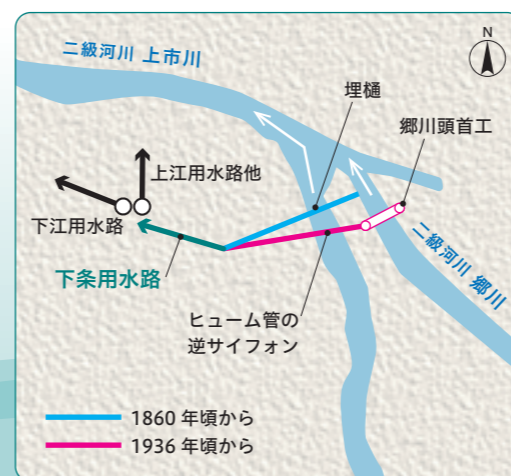
水路改修から
ほ場整備へ
用水の整備は終わったものの、下流部に通水能力の低い土水路があったため、排水の問題が解決されていませんでした。昭和27年(1952年)7月の豪雨では、小出川などの幹線排水路のほか、上市川、白岩川も氾濫。東の上市川と西の白岩川の間位置する下条郷は東西から洪水の挟み撃ちに遭いました。郷川の頭首工^(※3)は流木などにふさがれて通水能力を失い、上市川右岸堤が決壊。上流の寺町集落は1メートル以上の浸水被害が発生しました。
この大水害を受け、昭和31年(1956年)には白岩川右岸用排水改良事業が着工しました。郷川の頭首工には自動倒伏堰を採用し、上市川横断サイフォンに繋がっています。
また同年、団体営ほ場整備事業「下条

東部地区」も着工。食糧増産に向けた農業生産基盤の整備・開発(土地改良事業)が推進されていきました。
近年は、農業従事者の高齢化や後継者不足の問題が深刻化しています。こうした担い手不足に対する危機感から、農業経営の安定化・効率化を図る農地整備事業の機運が高まり、令和3年度には国営農地再編整備事業「水橋地区」が始まりました。(図③参照)
「水橋地区」は下条用水エリアを含む富山市、滑川市、上市町にまたがる612ヘクタールを対象としており、①生産力向上、担い手の体質強化を図るための大区画化・汎用化やスマート農業の導入
②高収益作物の導入や6次産業化による産地収益力の向上
この2点に注力しながら**地域全体の所得向上と活性化**を推進し、全国に先駆けた農業モデルの構築を目指します。

埋樋をつくり郷川から取水
上市川は氾濫により流路を変え郷川と合流してからは合流部のやや上流で上市川をせき止めて下条用水を引いていましたが、上市川は氾濫するだけでなく、夏には水が枯れるなど苦勞が絶えませんでした。このため、越中上条石割村の豪農・杉木弥助が右岸を流れる郷川から下条用水に取水する灌漑工事を計画。万延元年(1860年)、私財を投げ打って上市川の川底を掘り、地中に埋樋(うずひ)を敷設する大工事を成功させました。(図①参照)

逆サイフォンで川底下を通す

逆サイフォンで川底下を通す
杉木弥助が設置した埋樋は木製だったため、昭和初期になると腐食して漏水が激しくなりました。また郷川左岸で上江、下江用水に分岐する取水堰は、洪水のたびに流され、絶えず補修が必要でした。
特に昭和9年(1934年)夏の豪雨では、上流の寺町集落のほとんどの家屋が浸水する被害を受けました。
この水害の後、昭和10年(1935年)に県営用排水幹線改良事業に採択され、翌年の10月28日に起工



▲図② 郷川頭首工とサイフォンで横断の下条用水(イメージ)



▲図① 埋樋敷設後の下条用水(イメージ)

下条用水は上市川に注ぐ郷川を水源とし、中新川郡の中央部、約430ヘクタールを灌漑する用水です。現在のよな安定した取水・導水を実現するには、先人たちの知恵と苦勞の歴史があったのです。

農業用水のもつ多面的機能を学ぶ

この地域では、農業用排水の役割や農業が育む多面的機能を実感してもらうため、地元の小学生を対象とした『田んぼの生きもの調べ』を実施しています。参加した小学生からは「アメリカザリガニが厄介者だと知ってびっくりした」、「ごみを川に捨てないようにしたい」といった感想が寄せられています。



▲田んぼの生き物調べ



▲郷川頭首工
田に水が必要な時期には川の水をせき止めて下条用水へ取り入れ(写真左)、耕作しない期間はせき止めずに川の水はそのまま流れていきます(写真右)このほか、大雨等により上流水位が上がると堰は自動で倒れ、洪水被害を防ぎます。



新庄排砂水門

により、氾濫が発生するとともに、甚大な農業被害が続出していました。
この度重なる河川の氾濫を防ぐため、内務省技術顧問のオランダ人技師ヨハネス・デ・レーケは、常願寺川の治水計画に併せて、常願寺川にある12の取水口の取水口を1つにまとめる「合口化」を明治24年（1891年）に提唱し、翌年には同用水の開削工事に着手しました。「合口化」事業は12kmの幹線水路や2箇所もの隧道工事等非常に困難を極めるものですが、県内外から1万人以上の作業員が従事し、異例ともいえるわずか2ヶ年で完成をむかえました。



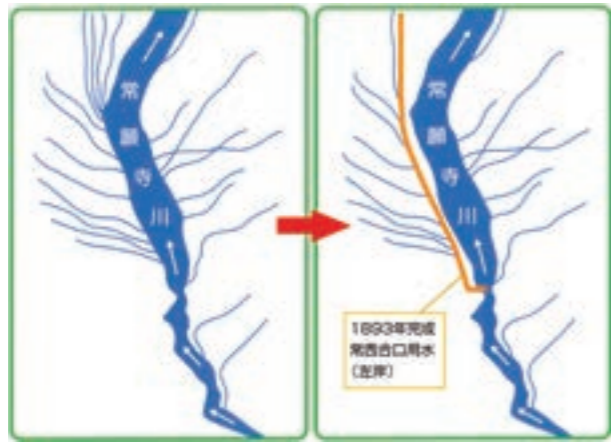
▲開削工事の様子



▲当時の取水口



▲第2隧道入口



▲合口化の対比

近代農業土木史に残る「合口化」

当時、12の用水路のかんがい面積は約5000ヘクタールに及び、このような大規模な「合口化」は全国でも初めての試みとされており、その特殊性や規模などから近代農業土木史に残る大工事でした。

多面的機能のシンボルに

常西合口用水は、農地に農業用水を供給するだけでなく、上水道や工業用水、水力発電など様々な用途に使用され、地域の発展に貢献してきました。春には水路に沿って咲き誇る桜並木がとても美しく、毎年多くの観光客が足を運ぶなど憩いと集いの場としても親しまれています。県や常西用水土地改良区では、今回の認定を、地域の皆さんに農業用水路などが持つ多面的な機能への理解を深めていただく絶好の機会ととらえ、記念碑の建立やPR動画、広報パンフレットの作成、地域の子供たちを対象とした用水路を巡るバスツアーを開催しています。今後も「常西合口用水」が地域の貴重な財産として、将来にわたり受け継がれてくよう施設の役割や魅力を伝えていきます。

▼常西プロムナード



▼親子バスツアー



▲クリアファイル & PRパンフレット

世界かんがい施設遺産 県内初登録

常西合口用水

国内屈指のあばれ川を克服した日本最古の大規模合口用水



上滝沈砂池



常西合口用水

世界かんがい施設遺産として 県内初登録！

令和2年12月8日に開催された第71回国際かんがい排水委員会（ICID）国際執行理事会において、富山市の「常西合口用水」が「世界かんがい施設遺産」として富山県内で初めて登録されました。

地域を潤す 常西合口用水

常西合口用水は、富山市を流れる延長約12kmの用水路で、世界有数の急流河川である常願寺川の左岸を並走しています。農地約3300ヘクタールにかんがい用水を供給するとともに、上水道や工業用水のほか、水力発電にも活用されるなど、地域の暮らしを支える重要な農業用水です。

常西合口用水の歴史

明治以前、常願寺川の両岸には数多くの取水口があり、特に流れの強い左岸側においては、洪水の度に多くの取水口の崩壊や土砂埋没

世界かんがい施設遺産とは

かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資するため、歴史的なかんがい施設を国際かんがい排水委員会（ICID）が認定・登録するもの。

対象施設 建設から100年以上経過したかんがい施設（ダム、ため池、用水路等）

- 登録基準
- ①かんがい農業の画期的な発展、食料増産、農家の経済状況改善に資するもの
 - ②構想、設計、施工、規模などが当時としては先進的なもの
 - ③卓越した技術であったもの等の9項目のいずれかの基準を満たすこと

登録状況 2021年現在15ヶ国107施設が登録済み（うち42施設（27府県）が日本の施設）

登録証



常西合口用水



▲記念碑



▲記念盾



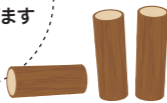
空中遊泳で鳥になった気分を楽しめるジップライン



風の道を散歩すると気持ちいいね!



伐採した丸太をみんなで運びます



自然体験で自分発見

切って育てる「風の道」森づくり体験を通して自然とふれあい、森と暮らしのかわりに学ぶびます。
「風の道」は自然林と人工林を繋ぐ散歩道。歩いてみると周辺の木の芽や山菜、香木等から様々な発見とともに、不思議と活力がわいてきます。森づくり体験で間伐した薪を使って沸かす露天風呂の癒し効果も抜群。



郷土食は本物の味

囲炉裏を囲んで飲むびるだん伝統のバタバ茶。黒茶を泡立てて飲むユニークなお茶で、飲みやすいと万人に好評！飲み放題と山菜のお茶請けが人気の郷土食です。

また、石窯で焼くピザも大人気。生地の練り上げから窯の出し入れまですべて参加者自らで作業します。トッピングには野菜や季節の山菜が盛りだくさん！最大25人分が一気に焼き上がります。もちろん一人前から作ることができ、自分で一から作るピザは絶品です。同じ石窯でつくられる焼き芋も専門店に劣らぬ味で、手作りの自然塩で味を整えると天下一品です。



石窯で一から作るピザは最高だね!



夢創塾参加者と長崎さん(写真中央)

自然と遊ぼう! やまびこの郷「夢創塾」

朝日岳のふもと、朝日町蛭谷(びるだん)の里山に手作りの山小屋、炭焼き窯、ツリーハウスなど17棟が集まるやまびこの郷「夢創塾」があります。

ここは、「自然と人の共生」が学べる自然体験学校。自然の中で生活していたころの里山体験暮らしや自然の恵みを教材とした多彩なプログラムを楽しめます。

朝日町蛭谷



朝日岳を望む

さらなる夢づくり

近くを流れる谷川の周辺整備を行い水生動植物観察、水遊び等の環境教育を充実し、昨年からフジバカマを栽培し始めたことで旅する蝶『アサギマダラ』が飛来するようになり、時には200匹以上の蝶が舞う夢の世界に出会えます。「これを機に栽培面積を拡大して、旅するアサギマダラの郷を作り、全国の蝶観察仲間とのご縁を大切にさらなる交流拡大を図りたい。」と夢を語る長崎さん。これからの夢創塾が楽しみです。



※写真はイメージです。アサギマダラとフジバカマ



ものづくりでプロセスを学ぶ

伝統のびるだん和紙づくりも夢創塾で体験できるメニューの一つ。
周辺の里山に自生する楮の刈り取りから紙漉きと乾燥仕上げまでが体験でき、世界で一枚のオリジナル和紙が作れます。
ほかにも昨年完成した大型塩釜でミネラルたっぷりの塩づくりもできるようになりまして。海水を持ち込み、薪や炭の燃料で水分を飛ばし、最後にニガリを除去して完成。山と海の繋がりを学びます。



柔らかさが人気のびるだん和紙は体験の定番



山と海の繋がりをを感じる塩づくり



体験活動の舞台づくり

里山の自然の中で過ごすこと、そんな口マンで27年前、荒れ果てた棚田跡に山仲間とくくれ屋を作り、夢は想うより創るものと「夢創塾」をスタートさせた塾長の長崎喜一さん。少しずつ手づくりで炭窯や里山暮らしの小屋づくりを展開していきました。
1999年にNHKで放映された新日本探訪等の影響で、幼稚園児から大学生まで幅広い年齢層のほか海外からの研修生も訪れるようになりました。
コロナ禍以前には年間1500人を超える繁盛ぶりで地元高齢者も先生役として大活躍！地域活性化への貢献を評価され、長崎さんは第1回オーライ！ニッポン大賞ライフスタイル賞や総務大臣表彰を受賞されました。「これらは活動の励みとなり、夢創塾は里山活用のモデルだと自負しています。」と長崎さんは胸を張ります。

住所/下新川郡朝日町蛭谷1
TEL・FAX/0765-84-8837
営業日/4月~11月
夢創塾ブログ
http://blog.nsk.ne.jp/nagasaki/index.html

夢創塾

とやまの農山村写真展 受賞作品

「とやまの農山村写真展」は、富山県の豊かな農山村風景を後世に守り伝えることを目的に開催。作品を応募される方はもちろん写真展をご覧いただく方々にとっても農山村の魅力を再発見する良いきっかけとなっています。

今回は296点(一般169作品、ジュニア127作品)の応募があり、その中から富山県知事賞(最優秀賞、優秀賞)、富山県土地改良事業団体連合会長賞(棚田賞)及びとやま棚田ネットワーク会長賞(特別賞)を選定・表彰しましたので紹介します。

(敬称略)



「黄昏の富山湾を望む」水野 敬雄 (立山町)



「はじめての田植え」又羽 颯斗 (氷見市)



「梨の交配作業」浦山 重光 (富山市)



「未来の担い手」舩田 勝義 (富山市)



「おいしく実れ」三浦 優真 (上市町)

優秀賞



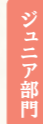
細川 潤
谷口 文夫



角田 真誠



佐伯 英吉
高田 きよ子
谷崎 悦夫
戸田 美香
高村 薫
上野 攻守



堀 天樂
永原 未智
戸田 智咲
石原 剣
浦 藍心
角田 脩介

受賞作品は「とやま棚田ネットワーク」のホームページでご覧いただけます。

とやま棚田ネットワーク



とやま帰農塾 塾生募集!

富山県では関係人口の増加や移住促進を目的に「帰農塾」というイベントを開催しています。農林漁業を体験してみたい方、田舎暮らしや移住・定住に関心のある方、富山の農山村で自然と歴史、農業と食文化を学び、体験してみませんか?



1 地元の人たちと交流できる
塾長をはじめ、各塾の運営の主体は地域のみなさん。すべての塾で地域住民との交流会を企画しています。ここでしか聞けないおもしろい話があるかも!

2 農山漁村の知恵や技術を学べる
各地域には昔から営まれ、引き継がれてきた農山漁村ならではの知恵や技術があります。帰農塾ではそれらについて学び、体験することができます。

3 地域を深く掘り下げられる
帰農塾では、期間中(2~3日間)ひとつの地域に滞在します。そのため、観光旅行とは違った角度で地域について深掘りすることができます。



● お申込み・お問い合わせ 2022年度の各塾のスケジュールは、グリーンツーリズムとやまホームページをご覧ください。

グリーンツーリズムとやま
TEL / 076-482-3161
FAX / 076-482-3635
E-mail info@gt-toyama.net



富山県農村振興課
TEL / 076-444-3380

とやま帰農塾





今号の表紙は、南砺市でワイナリーを運営するトレボー株式会社の皆さんです。社長の中山安治さんは高岡市で長年、酒販店を営んでいましたが、67歳になった時、「これまで家族を養ってこれたのはワインのおかげ。残りの人生はワインづくりで富山に恩返しをしたい」と2017年の秋、立野原地区の丘陵地に会社を設立しました。

翌年はクラウドファンディングや助成金、地元の地権者や各団体の支援を受けて12ヘクタールの畑を整備し、2019年にブドウの木2万7000本を植樹。2020年に工場を完成させてワインを醸造。2021年3月、初めてのワインを出荷しました。

同社では、ICTやAI、5Gを駆使したスマート農業を導入しています。畑の上空をドローンが飛んで木の傷みやカビを探知し、その情報を受けた無人ローバーが畑を走って処置をする。また、畑の温度や湿度を5分おきにデータ収集して品質向上に活かすなど、「農業を科学する」ことで少人数でも効率よく、リスクを最小限に抑えたワインづくりを実現しています。また、生産から加工・流通まで自立した6次産業を推進。国の6次産業化・地産地消法による「総合化事業計画」の認定を受けました。

荒地を美しいブドウ畑に変え、新たな雇用を生み出すなど、地域に根ざしたワイナリーをつかってきたトレボー社。今後はさらに、この地区に果樹園やカフェ・レストラン、ギャラリー、キャンプ場などを整備する「立野原コート・ドール構想」を展開していく予定です。コート・ドールとは、フランス語で黄金の丘という意味。ここで働く人、ここに来る人、そしてこの地域全体が潤い、たくさんの笑顔であふれる黄金の丘が少しずつ形になっていきます。

トレボー株式会社 総合化事業計画(6次産業化)認定事業所

- 所在地: 〒939-1755 富山県南砺市立野原西(コート・ドール)1197番地
- 販売所: ワイナリー「ドメーヌボー」
- 連絡先: tel.0763-77-4639 fax.0763-77-3851
- 営業時間: 10:00~16:00/定休日:毎週火曜・その他
- ホームページ: <https://tresbeau.co.jp>
- メール: tresbeau-info@tresbeau.co.jp



ホームページ



代表取締役社長
中山安治さん



ドメーヌボーの外観▶

Information

『スマート農業普及センター』のご紹介

富山県のスマート農業の普及を推進し、その技術を駆使できる農業者や指導者の育成・確保を図るため、富山市婦中町にスマート農業普及センターを開所しました。

本施設では、各種スマート農機を展示するだけでなく、ドローン操作やトラクタ作業を体感できるシミュレータ室では場での操作を初心者から経験者まで段階に応じて研修できるほか、「経営管理システム」を活用したほ場管理作業などのデータの解析・活用の実習も可能です。さらに100人規模の研修会が可能な大会議室を備え、農機メーカー等が開催するスマート農機の実演会や研修会等の場としても活用していく予定です。ぜひご利用ください。

研修用機器

- トラクタ運転シミュレータ
- ドローン
- ロボットトラクタ
- ドローンシミュレータ
- 自動操舵田植機
- 自動給水栓
- 収量コンバイン
- 経営管理システム
- GPSガイダンス装置



日本初!!
トラクタ運転シミュレータ



農業用ドローン



スマート農業指導員養成研修



ロボットトラクタ

スマート農機の展示

■お問い合わせ先 公益社団法人 富山県農林水産公社 スマート農業普及センター
〒939-2707 富山市婦中町東本郷101番地 TEL.076-465-4424 FAX.076-465-5481

□本誌に関するご要望、ご意見等をお寄せください。住所、氏名、年齢、職業のご記入をお忘れなく。個人情報については、内容確認以外に使用いたしません。

□本誌の内容、バックナンバーが富山県ホームページでもご覧になれます。 <https://www.pref.toyama.jp/> ふるさと夢とやま Q

第43号 令和4年3月

この冊子は、富山県農村環境創造基金ならびに棚田地域水と土保全基金で発行されています。

